

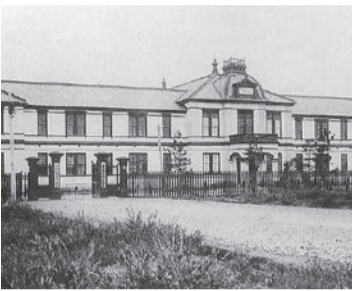


# 弘前大学同窓会報

## 第19号

発行日 平成30年3月1日  
発行者 弘前大学同窓会  
題字 吉田 豊 元学長

の三学部で創立・開学致しました。開学までの道のりは決して平坦では無く、戦禍により青森の校舎を失い、弘前への移転開学は極めて困難な状況でありました。



青森師範学校校舎

同窓会の皆様には、ますますご健勝のことと存じます。昨年の会報でお知らせ致しましたとおり、我が弘前大学は来たる二〇一九年五月に、創立七十周年を迎えます。



### 創立七十周年にむけて 卒業生の結束を期する

同窓会会長 西澤 一治

初代の丸井清泰学長が開学式告示において次のように述べられています。「思えば医学部、教育学部の前身たる青森医学専門学校、青森師範学校は、青森市において、戦



## 弘前大学創立七十周年記念について

弘前大学長 佐藤 敬

災を受け、医学専門学校はその手足とも云うべき附属病院を、師範学校は附属校とも全校舎を焼失するの憂目を見、その痛手は余りにも深かったのであります。当時職員生徒は一致団結、母校復興のため血の出るような努力を傾けたことは今にして回顧するとき、全く

涙なきを得ないのであります。このときに当り、中央当局の機宜に即した計らいと、弘前市の絶大な犠牲的精神と、更に青森市の深い御理解とによって学校移転という難事が成し遂げられ、しかも移転後の地元各方面の多大なる御協力によって、着々と学校内容の整備強化が進捗し、弘前医科大学の建設を見ることとなり、今日の弘前大学開学の基礎が固められることになったことに思い及びますとき、私共はただ、感慨無量でありま

す。(一部抜粋) 開学以来、弘前大学は着実に充実・発展し、昭和三十年に農学部設置、昭和四十年に文学部設置、改組を経て、人文・教育・医・理工・農生の五学部を擁する総合大学として現在に至り、これまで約六万の卒業・修了生を輩出し、二年後には七十周年を迎えることになりました。

同窓会の皆様には、日頃から大変お世話になっておりますことを、この場を借りて改めてお礼申し上げます。

弘前大学は、旧制官立弘前高等学校、青森師範学校、青森青年師範学校、青森医学専門学校、弘前医科大学の統合によって、一九四九(昭和二十四)年に新制大学として発足してから、二〇一九(平成三十一)年には創立七十周年を迎えることとなります。最近では、遠藤正彦前学長の下で創立六十周年記念式典が盛大に開催され、さまざまな記念事業が実施されたことは記憶に新しいところで、七十周年の記念事業を実施することは、この時期に大学に籍を置く者としての務めであると認識しています。これを機に、七十年に及ぶ本学の歴史や前身となった各学校の歴史に想いを馳せるとともに、特に最近の十年間の歩みを顧み、今後の在り方を考えながら、

「世界に発信し、地域と共に創造する」の通り、平成二十八・三十三年度の第三期中期目標・中期計画では、青森県全域の創生及び活性化を推進する戦略拠点「地域連携センター」(仮称)の整備など地域の創生・発展を牽引することに重点を置いてまいります。



現在の弘前大学事務局庁舎 (撮影: 西澤一治)

戦後の教育制度改革に伴って、多くの新制国立大学が一堂に設立され、同じ時期に創立七十周年を迎える大学も多い中、必ずしもすべての大学で記念事業が予定されている訳ではないと聞いています。その意味では、多くの方々のご支援により、弘前大学創立七十周年を祝うことができるのを幸いに思っております。皆様のご支援を宜しくお願い申し上げます。

弘前大学のスローガン「世界に発信し、地域と共に創造する」の通り、平成二十八・三十三年度の第三期中期目標・中期計画では、青森県全域の創生及び活性化を推進する戦略拠点「地域連携センター」(仮称)の整備など地域の創生・発展を牽引することに重点を置いてまいります。

## 弘前大学創立70周年記念事業への募金のお願い



2017年10月から2019年12月までの期間、弘前大学創立70周年記念事業の募金を行っています

個人の場合 1口5千円 (できるだけ2口以上のご協力をお願いいたします)  
法人等の場合 1口の金額は特に決めておりません  
この寄附金は、税法上の優遇措置が受けられます

主な事業計画  
1 記念式典の挙行・記念講演会の開催  
2 国際交流基金の設立  
3 弘前大学創立70周年記念史刊行

お振込先 弘前大学基金  
ゆうちょ銀行 弘前郵便局 当座 0119848  
青森銀行 弘前支店 普通 3078615  
みちのく銀行 弘前営業部 普通 2693447

【問合せ先】 国立大学法人弘前大学総務部総務広報課  
TEL 0172-39-3009

# 人文社会科学部

## NIE活動を推奨



東奥日報社 販売局長 雪田 知宏  
(昭和58年 経済学科卒)

弘前大学を卒業して地元の新開社に入社し、早くも三十五年が経過した。私が所属していた財政学ゼミ(地主豊教授、のち岩手県立大学に移る)からはマスコミ志望で就職した先輩が何人かいた。二年前に北海道新聞社の工藤大彦氏、一年上に札幌テレビの萬谷慎太郎氏がいて、両氏は現在も活躍されている。

私事だが、一九八九年に結婚した時、地主先生ご夫妻に媒酌人をお願いした縁で、現在も弘前市のご自宅に毎年年始のあいさつに伺っている。

東奥日報社の現二百七十五人の社員のうち、弘大卒業生は三十六人。入社年次では、私が最古参となった。

私は中学時代から進路志望として漠然と「マスコミの海外特派員になりたい」と思っていた。特派員というほど大仰な仕事ではないが、海外出張の夢は入社後、何度か実現した。一九八八年スコットランド、九一年米国ワシントン州ウエナッチ市、二〇〇〇年スウェーデンのルレオ・キルナ両市へと、取材で派遣され、貴重な体験をさせてもらった。

記者として母校弘大を取材した経験は、弘前支社勤務がなかったこともあり、そんなに多くない。文化記者時代の一九八五年八月、水野裕教育学部教授(のち副学長)に国土地理院発行の県内地図の売り上げトップ地域のリストを見ていただき、その理由を伺った。また木造支局長時代の二〇〇四年三月、長谷川成一文学部教授に江戸天明期に旧芦屋村(現つがる市)の農民が江戸や京都・大坂を旅した日記について見解を尋ねた。

務局担当として開催準備に当たった。現在は、青森県内に本社・支社支局を置く新聞社・通信社十一社が加盟し、県教育庁関係者や小中高の校長会会長が委員を務める青森県NIE推進協議会の事務局長を務めている。協議会の現会長は弘大理事・副学長の郡千寿子氏。前会長は元弘大教育学部教授で、現在は宮城教育大学教授の児玉忠氏。児玉氏には東奥日報の記事を読み解く問題を作っていたら紙面に連載し、問題集を出版した。

国内の人口・世帯数減やIT(情報技術)の進展などのため、新聞購読は減っている。紙の新聞でなく、スマートフォンやタブレット端末で電子版の新聞を閲覧する人が増え、家庭で子どもが新聞紙を読めない状況が広がっている。

NIE活動は一九三〇年代、アメリカで始まり、日本では八五年の新聞大会で導入が提唱された。教育界と新聞界が協力し青少年の育成や、活字文化と民主主義社会の発展を目的に掲げ、学校への新聞提供事業などを行う。青森県内でも、家庭購読を増やす活動のほか、学校に有償・無償で新聞を読んでもらっている。小・中・高校、大学・短大などに出版業も行う。

# 教育学部

## 好きなものを

## かけ合わせて



郷土絵本作家 元小学校校長 知坂 元  
(昭和51年 小学校課程卒)

私は幼小中大と十五年間弘前大学のお世話になりました。まもなく弘大七十周年です。おめでとうございます。

## OKINAWA

私の弘大時代? うん、沖縄と大学の二重生活でした。四月に弘大に入学したら、五月に沖縄が本土に返還。沖縄ってどんなところなんだろう? 寝袋一つ持って船を乗り継いで行ってみました。



西表島の小学校を訪問。子どもたちと人形劇をしたり、料理教室を開きました(昭和48年)

翌日から十日間、寝袋で野宿してまわりましたが、寝ていると頻りに軍機が顔をかすめ、飛び交います。離発着間際の超低空飛行なので機体の番号や横文字がすぐ目の前。爆音・爆風・匂いで押しつぶされそう。OKINAWAを実感する毎日でした。

帰り一カ月ぶりに大学に行ったら、学生掲示板に大きなポスター。『青年海外協力隊国内版隊員募集』『派遣先・沖縄西表島三ヶ月』。

よっしゃあと申し込むと全国から集まった十三名が漁船のような小船に乗せられ、五回乗り換えで西表島へ。ジャングルの中で百日暮らし、すっかり沖縄のとりこになりました。雪国に生まれ育った少年が、南国の強烈な太陽とジャングルから受けた劇的感動!そして特別な歴史。帰り際、那覇の国際通りで買った『琉球史』の本が人生のバイブルになりました。

振り返ってみれば、弘大時代は沖縄と大学のコラボ。卒業後は教職と郷土史とマンガの三種混合。一本道を歩いていてもなかなかアイデアはひらめきませんが、自分の好きなものを二つ三つとかけ合わせると、思いがけずいろいろなアイデアが波となって押し寄せてくるのです。弘大時代に何度か海を渡った体験をいかし、これからは得意なこと、これを上げて、オリジナルな本の旅をしていこうと思っています。

# いかがですか オリジナルグッズ

## 約二十種類の商品



アップルスナック

弘大グッズのうち、日本酒「弘前大学」は弘前大學生協サリジェ店とシェア店(いずれも文京キャンパス内)にて、その他の商品は同生協シェア店にて販売されています(一部商品は医学部フェリオ店でも取り扱っています)。なお一部、受注販売に

弘前大学オリジナルグッズ(以下、弘大グッズ)をご存知でしょうか。弘大グッズには、食品、衣類、雑貨、文具など約二十種類の商品があります。詳細は表のとおりです。商品ラベル

## 弘前大学オリジナルグッズ一覧

日本酒「弘前大学」	2,143円
日本酒「弘前大学」と学章入りグラスセット	2,966円
リンゴジュース「医果同源」6本入(受注販売)	2,270円
アップルスナック(2月~6月の販売)	648円
紅玉りんごジャム	515円
ひろだいアップルケーキ	185円
Tシャツ(サイズ:S.M.L.XL)	1,522円
トートバッグ	648円
ハンドタオル	360円
マフラータオル	540円
スポーツタオル	1,080円
リンゴキューピー	483円
扇子	864円
マグカップ	756円
オリジナルブックマーク	875円
一筆箋	258円
ポストカード	103円
クリアファイル	124円
ボールペン	129円
シャープペンシル	86円

(税込み)



デビュー作の『尼の城物語』

## 得手に帆を上げよ

大学を卒業し教員になると、目の前の子どもたちをふるさとの歴史に触れさせる大切さ・使命を感じ、琉球史から津軽史へ路線変更。「尼の城物語」登場となりました。ちようどの頃は「マンガでわかる」が全国的なブーム。政治も医学もゴルフもマンガで読むとよくなる、という時代でした。弘前の歴史も漫画にすれば興味を持ってアプローチしてくれるんじゃないか!そう願ったわけです。

# 医学部医学科



## 生涯現役(仕事の経歴)

国立病院機構  
弘前病院名誉院長 津嶋 恵輔  
(昭和29年 弘前医科大学卒)

医科大学(四年制)卒業後一年間はインターン制度を経て国家試験がありました。医師免許を頂いた後に弘大第二外科に入局しました。当時は弘前大学には大学院制度がありません。入局後は研究科学生を二年間、これを二回繰り返すと博士課程修了とみなされる時代でした。

当時は第二外科学初代榎哲夫教授(七戸町出身)が担当され、入局時は外科学会総会での宿題報告「寄生虫胆道疾患の外科」を終えたばかりで、今後は胆汁排出機転と胆石生成の化学的メカニズムの二つに向けられました。私の担当は四年後の博多の日本医学会の主テーマ「胆汁排出のオジジ氏筋の関与」で教授により述べられました。その後、榎教授は東北大学へ転任しました。後に大内清太教授が赴任して来られました。研究テーマは一転し癌毒性物質の研究に向けて薬理学の藤田先生、生化学の橋本先生等の指導協力の下で、ガスクロマトグラフィ等を操作、その成果を発表しました。

昭和四一年公立米内沢病院に赴任。柿崎善明院長を中心に勉強会が開か

です。店頭以外でも弘前大学生協ホームページ、また同生協への電話注文による購入も可能です。

## シェア店 スタッフのおススメ

シェア店スタッフの木村さんと福士さんに、弘大グッズのお話を伺いました。

シェア店での人気商品は、アップルケーキと文具です。アップルケーキは買ってすぐに食べられる単品商品と、プレゼントにいい二個入りや六個入りの商品があります。文具はクリアファイルとボールペン、シャープペンシルをセットにしてお土産に購入される方も多いです。



木村さんのおススメは、Tシャツとマフラータオルです。Tシャツは桜をイメージした柄が弘前らしくてお勧めです。マフラータオルは弘大ねぶたの出陣の際、お揃いで首に巻いていただけたら嬉しいです。

## 日本酒「弘前大学」



サリジェ店の早川店長に、サリジェ店とシェア店に扱っている日本酒「弘前大学」についてお話を伺いました。

この日本酒は、金木農場で学生が実習目的で育てたお米を原料に、弘前市石渡の三浦酒造で造られています。実習で育てたお米であるため、毎年

微妙にお米の品質が異なり、それに合わせて酒造りの工程で微調整がなされているそうです。

価格はやや高いと感じられるかも知れませんが、米作り、酒造りの努力と、価格のうちの五十円分が大学への寄附に充てられることを知っていただければと思います。毎年のお酒の出来栄を味わいながら寄附の形で在学生への支援ができる逸品です。



# 医学部保健学科

## 被ばく医療教育との出会い



保健学研究科  
放射線技術科学領域代表  
教授 原 洋一郎

保健学研究科放射線技術科学領域代表の細川と申します。どうぞ宜しくお願い致します。私が弘前大学に赴任したのは平成二十(二〇〇八)年四月のことで、早いもので十年が経過しようとしています。弘前大学では、その平成二十年に、遠藤前学長のリーダーシップのもと、被ばく医療のための人材育成と体制整備のプロジェクトが立ち上がり、以来、保健学研究

科は被ばく医療教育に深く関わってきましたので、ここではその経緯と現状を紹介いたします。弘前大学における被ばく医療人材教育は、青森県には原子力関連施設が多数存在するため、事故に備えて被ばく医療を担う人材を養成する目的で開始されたものでした。当初は被ばく医療を学ぶために、西澤一治先生を中心に、教員が原子力関連施設の見学や、講習会

を受講するところから始まりました。そして大学院保健学研究科は平成二十二年に、博士前期課程(修士課程)に「被ばく医療コース」を開設し、また看護師と診療放射線技師のための被ばく医療研修を開始しました。そのよな中、平成二十三年三月十一日に大地震が発生し、福島第一原子力発電所事故が起こりました。そして平成二十三年三月十四日に文部科学省から放射線測定者派遣要請が弘前大学にあり、保健学研究科ならびに被ばく研究所の職員を中心に、七日おきに派遣員を交代しながら事故周囲住民の汚染検査や空間線量を逐次測定するとともに環境中の汚染を調査しました。

原子力発電所の安全神話が崩壊し、さまざまな被ばく関連のプロジェクトが採択され、保健学研究科も積極的にこれら事業に加わりました。その中で、私の思い出深いものは、平成二十六年に保健学研究科の看護教員を中心にして採択された、環境省の「放射線の健康影響に係る調査事業」があります。これは、福島県浪江町の避難住民を対象として、放射線健康不安を軽減し、生活の満足感を高めQOLを向上させ、帰還に向けた新生活再建支援の実践モデルを構築することを目的にしたものでした。具体的には浪江町で平成二十六年から二十八年度までの三年間にわたり、(一)教職員や子育て世代の母親が抱える課題を明らか

にする、(二)高齢者の健康や放射線に対する不安を明らかにするとともに、運動機能の実態を明らかにし、機能低下防止のための介入プログラムの効果を検証する、(三)浪江町住民の不安解消のため、住民の全身被ばくを分析する、などの活動を行いました。

現在も保健学研究科教員は、浪江町で住民対応を行うとともに、弘前大学を中心として被ばく医療教育を行っています。先日、被ばく医療教育に対する評価の場でも、ある外部評価の先生が「弘前大学の被ばく医療の取り組みについてのアピールが足りない」という話があったが、これは弘前大学が確実にその実績を積み上げているためではないか」と言っておられ、これは弘前大学の特質を良く捉えた言葉であると思います。この充実した十年間を、この欄すべてに書くことはできませんが、テーマを与えてくれた弘前大学に感謝するとともに、同窓会の皆様にもこのような活動があることも知っていただき、機会がありましたら、これからの御指導、御鞭撻賜れば幸いに存じます。



2014年韓国原子力医学院研修参加

# 理工学部



青森県立八戸北高等学校 校長 竹浪 二三正 (昭和58年 理学研究科数学専攻修了)

## お世話になりました

77SM19 四十年ほど前、弘前大学理学部数学科に入学時の私の学籍番号です。同級生達とSMが気になるといふ話をした。数学科は三十人中で女子学生は三人だったことなど。入学当時の何げないことが思い出されます。さらに、複数回に及ぶ数学科の歓迎コンパ、教員対学生のフットボール大会、三年生による一年生に対する自主ゼミ指導など、先生方を含めてさまざまな形で、数学科の縦のつながりを強く感じました。学生の頃はここでは書けないような、とんでもない行動や酒の失敗もありました。久しぶりに昔のことを思い出し、自分が恥ずかしくなりました。

次に勉強の話を少し。一年生は教養部での数学は解析学と線形代数。大学での最初の本格的な数学である「解析学」、火曜日の二時限目、一時限目の体育の後ということ、いろいろな意味で大変でした。その内容がまたシビアでした。いわゆるε-δ論法といわれる極限の根本の話から始まるのですが、これがさっぱり分からないのです。周りの同級生達もほぼ同様で、本当に理解できない

まま授業はほとんど進んでいきました。数学科に入学する学生達です。高校時代は数学が得意だったはずですが、大学での数学の論理性・厳密性についていけない学生が続出しました。私も最初はかなり戸惑いました。最初は何となく乗り越えましたが、高校と大学の数学の違いに、愕然としたことを覚えています。

三年生からより専門的な授業となり二年生の内容に比べて格段に難しく理解するのに必死でした。その上数学演習という名称で、四年生のゼミの先取りの授業があり、そのための準備がなかなか大変でしたが、このゼミのお陰で本来の数学を勉強するということの片鱗に触れたような思いでした。数学科では替わりに一冊の本を輪読することになっていました。私は応用数学のゼミに所属し、数理統計研究所から赴任さ

れたT先生の下で勉強し、先生の指導のお陰もあり、大学院に進むことができました。大学院生活もなかなかでしたがここでは割愛します。

実は私は実験が嫌で、実験がない学科というネガティブな動機で入学した学生でした。しかし数学科では、論理を重んずること、証明のプロセスが大事だということ、学びました。数学の本質はプロセスにあることを強く意識しました。高校の教員になってからは、結果を求める風潮を強く感じました。今でもその風潮はあり、「結果が大事だ」という意見も理解できません。しかし私は生徒達に「努力が必ず報われる」とは限らないが、努力するプロセスが大事であり結果だけが全てではない」と話してきました。今でもその考え方は間違っていないと思っております。このような根本的な考え方を含め、数学科教員としての私のかんりの部分を形作ってくれたと同時に、大きく成長させてくれたのは、まさに弘前大学理学部数学科だったと確信しています。年寄りの思い出ばかり書き綴ってききましたが、当時の先生方や先輩、更には同級生達そして、現在の理工学部は今更ながら感謝してこの文書を書きたいと思っております。本当にお世話になりました。



# 農学生命科学部



農学生命科学部 国際化推進室副室長 教授 松崎 正敏

## 「海外研修入門」 学生の国際化のために

平成二十八年度の新生を迎えるのを機に、文京町地区の人文、教育、理工および農生の四学部は地域貢献に資する人材養成や国際化推進を目標に掲げて改組を行いました。農学生命科学部では、生物資源学科に食品コースを新設して食料資源学科に、園芸農学科は食料・農業分野の国際化の進行に対応するため国際園芸農学科に、それぞれリニューアルしました。

学生定員も三十名増員して、百八十五名から二百十五名となり、教員も十名増員され、全国の国立大学法人に設置されている農学系学部の中でも大規模なグループに仲間入りしました。

改組に伴って学部の全学生に対して「国際食料流通論」や「起業ビジネス論」といった科目が必修として課せられるなどカリキュラム改革が行われましたが、新設科目と



支援する「キャリア教育科目」などの地域を志向した教養教育改革を実施しました。研究分野では、地域課題解決のための研究活動を助成する「青森ブランド価値創造研究」や、産業の発展・イノベーションの創出に向けた「起業家塾」を実施しています。社会貢献分野では地域課題をテーマとした公開講座や、自治体・企業と連携した講演会を実施しています。弘前大学の教育・研究・社会貢献が一体となって地域を志向した多様な取り組みを展開しています。

平成二十七年度には、COC事業を進展させた同省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に採択され、

## COC・COC+の取り組み

### 弘前大学COC推進室

近年、大学を取り巻く環境において「COC」や「地(知)の拠点」という言葉が目立っています。「COC」とは、「Center Of Community」の略で、「地域活性化の中核的拠点」を意味します。

現在、青森県は少子高齢化による人口減少や地域コミュニティの衰退など、多様な課題を抱えています。その課題解決のために果たすべき「地(知)の拠点」としての役割が弘前大学に求められています。

そこで弘前大学では、平成二十六年度文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に係る連携・協力に関する協定締結式

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)に係る連携・協力に関する協定締結式



「海外研修入門」が導入されましたので、その内容についてご紹介したいと思います。

「海外研修入門」では十名内外程度までの少人数の学生が、引率教員とともに、海外の農業・食料・自然など専門に関連した特定のテーマで海外の現地に赴いて見聞を深めるというものです。旅行期間が大きな事故もなく遂行されました。いくつかの旅行計画の研修目的と行き先をご紹介すると、以下の通りです。「日米文化、農業、生命科学の比較」のため、アメリカワシントンDCへ。「アメリカ大規模農業視察」のため、本学の協定校のあるアメリカテキサス州マーチンへ。「タイ農業と日本の関わり」を学ぶため、タイ王国のバンコクおよびチェンマイへ。「中国型フードバレー視察研修」のため、中国の青島ならびに萊陽へ。そのほかにも、オーストラリア、フランス、台湾、ニュージーランドなど、興味深い研修プログラムが目白押しです。

本研修プログラムの計画にあたって、事前に旅行先の探索を行ってきました。その過程では、「一週間程度の短期間、しかも教員に計画してもらった研修旅行など、お金の無駄だ！」などのご批判も頂戴しました。しかし、若者の内向き傾向が懸念される中、海外旅行経験のない学生に不安感なく世界に目を向けてもらう機会を「海外研修入門」が提供できたと思えば、学生の国際化に資するものと信じています。

# 東京同窓会



東京同窓会会長 津田 良司

## 思いあそば 逃げるな!

現在私は地域おこし協力を放つ牛の糞尿が、メタンガスにかわり、電気と冷房機器を動かす。ガスが抜けた糞尿は処理され無臭で無臭の堆肥となります。それが牧草地にまかれ牛のエサとなります。牛舎の掃除や餌やりも徐々に自動化されつつあります。まさに牛乳生産工場です。環境にも優しい循環型の農業です。こんな景色を三十二年で見るとは思いませんでした。



十勝平野の大麦田 平成28年7月撮影

ここは十勝平野、農業地域です。小麦や大麦、小豆や大豆、トウモロコシやじゃがいも、甜菜と牛からとれる乳製品など良質で豊富な作物が生産されています。農業も日進月歩、衛星やドローンを使った効率の良い植え付けや適切な収穫も行われています。酪農家も同様で、技術革新がめざましく、牛舎の脇に見慣れないバイオ発電の施設が毎年増えています。悪臭

を放つ牛の糞尿が、メタンガスにかわり、電気と冷房機器を動かす。ガスが抜けた糞尿は処理され無臭で無臭の堆肥となります。それが牧草地にまかれ牛のエサとなります。牛舎の掃除や餌やりも徐々に自動化されつつあります。まさに牛乳生産工場です。環境にも優しい循環型の農業です。こんな景色を三十二年で見るとは思いませんでした。

森ネットワーク」を形成しました。そして、学生の青森県内への就職や起業支援、雇用創出に取り組む「オール青森で取り組む『地域創生人財』育成・定着事業」を実施しています。

COC+事業は、平成三十一年度までの五年間で、青森県内への就職率

平成の御世も一年と数カ月で終わろうとしています。平成元年卒の私は、卒業をまじかにした昭和最後の日、正月七日、小淵内閣官房長官の新元号の発表を北溟寮の食堂で静観していました。冬休みで閑散としていた寮で、大きな時代昭和の終わりに思いを巡らせ新時代の到来を遠望していました。

平成時代ではネット社会が世界を席巻しました。個人の世界が足元からグローバルな空間に直結し、個人の可能性が大きく広がりました。次の時代はAIの時代の到来か? 経済学者ガブレイス言うところの「不確実性の時代」に生きてきた私にはいささか窮屈な時代かもしれない。でも未来への思いは広がります。

弘前大学基金は、大学の財政基盤の充実強化を図り、学生支援、教育研究活動等の一層の充実を図ることを目的に平成二十七年七月に創設されました。本学では、本基金を有効に活用し、地域活性化の中核的拠点としてイノベーション創出と人材育成を通じて活動成果を地域社会へ還元することにより、地域を志向した大学改革を進めることとしております。

本基金の主な事業としては、次に掲げる事業に対して支援を行うこととし、募金活動を行って

一、学生への支援事業  
二、教育研究活動への支援事業  
三、国際交流活動への支援事業  
四、社会貢献活動への支援事業  
五、その他基金の目的達成に必要な事業

また、本基金の新たな活動として、古本募金を平成二十九年三月より開始しました。これは附属図書館の書籍等を充実させるための事業として、不要になった書籍やDVD等を寄附いただくことで、その売却代金が本基

金に寄附されるものです。書籍等は、回収ボックス、または宅配業者による集荷で回収しております。回収ボックスは、附属図書館と医学部分館に設置しております。

これまで本基金では、学内外の皆様からの温かいご支援により、平成二十八年年度末までに約五千万円のご寄附をいただくことが出来ました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

本基金では、これまで次のような事業に対して支援を行ってまいりました。

**ゆめ応援プロジェクトの拡充**  
「ゆめ応援プロジェクト」とは、本学への入学を希望しているにも関わらず、経済的理由で大学進学を断念せざるを得ない学業優秀な者に対して、入学前に経済的負担を軽減する事を確約し、入学料相当額を支給することで本学への進学を支援する事業です。本基金では、当該事業費を助成することで、支援対象人数を増やすことが出来ました。

**海外協定校派遣留学生の奨学支援事業**  
協定校へ留学する学生に対して経済的負担を軽減するため、奨学金の給付事業を開始しました。この支援により、学生が留学しやすい環境の整備を進めました。

**災害支援・交流ボランティア派遣事業**  
台風による被災地において、弘前市等と連携し、救急救援活動を複数回にわたって行いました。参加した市民・学生が、被災地の現状や被害の実態を知ることで、防災意識の向上を図りました。

本基金に対するご寄附は、振込書による振込のほか、クレジットカードによるご寄附も可能となっております。また、税法上の優遇措置が受けられます。

さらに詳しい情報は、基金ホームページにて公開しておりますので、不明な点等ありましたら、ホームページの問い合わせフォーム、またはお電話にて対応いたします。皆様のご支援を待ちしております。

【問合せ先】  
0172-39-3034  
弘前大学基金事務局  
(財務部財務企画課内)

弘大基金ホームページ  
QRコード

### キャリアセンターの新たな取り組み

平成29年度

- 保護者の方向けの「就職ガイドブック【保護者編】」を発行しました。
- 求人票、インターンシップの検索等に役立つ「弘前大学キャリアコミュニティ」を開設しました。
- 就職関連ガイダンス等の情報のLINE配信をはじめました。

### 学部卒業生の進路状況 (H29.3卒)

学部	就職者	進学	臨床研修医	未就職者	その他
人文学部	87.1%	2.9%	2.6%	7.3%	0.8%
教育学部	75.3%	9.1%	14.8%	0.8%	0.0%
医学部医学科	90.1%	0.9%	1.5%	0.2%	3.4%
医学部保健学科	89.3%	0.2%	0.7%	0.5%	4.9%
理工学部	57.5%	38.4%	34.2%	0.5%	4.9%
農学生命科学部	60.3%	34.2%	4.9%	0.5%	4.9%

### 学部卒業生の地域別就職状況

学部	卒業生	就職者	未就職者	進学	臨床研修医	その他
農学生命科学部	184	112	111	1	63	9
理工学部	292	170	168	2	112	10
医学部保健学科	196	175	175	0	18	3
医学部医学科	121	-	-	-	109	12
教育学部	243	185	183	2	22	36
人文学部	341	306	297	9	10	25
合計	1,377	948	934	14	225	109

地域別就職状況 (就職者 934名): 北海道 19.5%, 青森県 26.3%, 東北(青森県を除く) 19.2%, 関東(東京都を除く) 11.0%, 東京都 18.7%, その他 5.2%

両名の全国的に著名な識者をお招きいたしました。二回とも多くの方々に足を運んでいただき、非常に有意義な講演会となりました。

海外協定校派遣留学生の奨学支援事業  
協定校へ留学する学生に対して経済的負担を軽減するため、奨学金の給付事業を開始しました。この支援により、学生が留学しやすい環境の整備を進めました。

災害支援・交流ボランティア派遣事業  
台風による被災地において、弘前市等と連携し、救急救援活動を複数回にわたって行いました。参加した市民・学生が、被災地の現状や被害の実態を知ることで、防災意識の向上を図りました。

